

はつらつニュース



医療法人社団 木水会

田辺クリニック

田辺 泰登

〒722-0002 広島県尾道市古浜町 6-20
TEL(0848)24-1155(代) FAX(0848)24-1156



Vol. 164

★マニア、アーティスト

が捕まつたか、捕まえようとしてガサ入れする場合です。

私は「了解しました。待機しています。」と答えます。捕まつた被疑者が尿の提出を拒否した場合、裁判所の許可状を得て強制採尿をすることがあります。待つているとそのうち電話があり、「お騒がせしました。強制採尿の必要はなくなりました。」という事が多く、実際には私の出番はめったにありません。

しかし、時に「今から連れて行きますのでお願ひします。」という場合があります。それが深夜2時、3時という事もあり、寝ぼけながら着替えて、クリニックへ出かけて行きます。

間もなく手錠をかけられた被疑者と5～6人の係員がやって来ます。私は彼らの前でビニール手袋をつけ、尿管カテーテルを袋から取り出しながら、「尿を出せないようなら、この管を入れることになります。動くと危ないので大人しくしてて下さい。」と言います。

沈黙の時間が流れ、それではと私が近づくと「待て。出そうだ。となり、トイレに連れて行かれます。トイレにこもること20分、尿

どうにも止まらない

毎年10・11月は、麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動月間です。今回は私のトリ物帳です。



★
命トリ

以前某刑務所の協力を得て、覚醒剤犯収容者の肝炎ウイルス調査をしたことがあります。結果は驚くことに、8割近くがB型肝炎やC型肝炎ウイルス陽性でした。中にはBとC両方に感染している人いました。

この結果を収容者の再教育に役立てたいと、講話を頼まれました。講堂には数10名の覚醒剤関係の人達が集められ、私は始めました。覚醒剤のメタンフェタミンは、元々日本人の長井長義が、明治21年に漢方生薬の麻黄より抽出したエフェドリンから合成したもので、その後ドイツの学者により、覚醒・興奮作用が発見され、医療だけではなく一般にも使用されるようになりました。

戦時中は夜間作戦時の眠気醒ましや、特攻隊の気分高揚のため使用されました。戦後大量の覚醒剤が軍部から流出し、一般市民や学生も眠気醒ましに気軽に服用していました。ヒロポンという名で販売され、常習者はポン中と呼ばれていました。

やがて薬物の弊害が急増したため、昭和26年覚醒剤取締法が成立しました。

し、年間5万人以上が検挙されました。覚醒剤は使用し始めた時は体がシャンとし、眠らなくても何でも出来るような気分になります。ところが薬の効き目がなくなると脱力感、無気力となってまた使いたくなります。薬の耐性ができてくるので、使用量は益々増えていきます。薬を手に入れるのに犯罪を起こしたり、注意力が低下して、大きな事故に発展することがあります。

皆様神妙に聞いて下さり、少し
は更生の役に立ったのではないか
と思いました。実際には覚醒剤の
再犯率は65%以上と飛び抜けて高
率です。いかに薬剤からの脱却が
難しいかを物語っています。その
時頂いた麦入りごはんのカレーラ
イスは絶品で病みつきになりそ
でした。

最近若い人の大麻使用の検挙率が高まっています。芸能人やスポーツ選手にも拡がって、連日ニュースになっています。大麻は今やシンナーを凌いで若者の入門薬剤（ゲートウェイ・ドラッグ）の主役になっています。大麻→覚醒剤→麻薬→ヘロインと進み、一生を棒にふります。

背骨の骨折のおはなし

今回はこの背骨の骨折（脊柱圧迫骨折）のお話です。田辺クリニックのデイケアを利用しておられる方は現在 80 名前後おられます。その中で背骨の骨折（脊柱圧迫骨折）を受傷したことのある人はなんと十数名の方が経験者でした！ デイの仕事をしていると圧迫骨折の話を聞くことは珍しくはないのですが利用者の方の 2 割近くの人が圧迫骨折を受傷していたと知り驚きました。

背骨は頸椎と胸椎や腰椎などいくつもの骨が重なり合って出来ており（合わせて脊柱）、その背骨の骨の一つが（時には二つ三つ）**圧迫されて押しつぶされてしまうことを脊柱圧迫骨折**と言います。体を動かさないで安静にしているときにはあまり痛みを感じないのですが、寝返りや起き上がるなど体を動かすときに激しい痛みが現れるのが特徴です。ひどい時には足にまで痛みが出たり、しびれなど麻痺を伴うこともあります。

圧迫骨折の原因は高所からの転落、交通事故などの外部から大きな力が加わることで起きることが多いのですが、高齢の方の圧迫骨折の原因の多くは骨が脆くなっている**骨粗しょう症**によるものがほとんどのようです。そのため何かの拍子で尻もちをついたり、咳やくしゃみ、重いものを持ち上げるなどいつもの生活の動作をしていても圧迫骨折を起こしてしまうことがあります。

治療としてはギブスやコルセットで背中を固定して安静にして過ごす保存療法が一般的です。起き上がることが難しいほど痛みが強くても、特に治療はなく背中を固定

して安静にして過ごすだけなので入院となることはあまりなく自宅で養生となる場合がほとんどです。この治療はつぶれた骨が自然に固まるのを待つものなので（つぶれた背中の骨はつぶれた形のまま固まり元の形には戻りません）、早ければ 1 ヶ月、長引けば 3 ヶ月くらいは窮屈なコルセットを体に巻いて痛みと付き合わなければいけません。つぶれた骨が固まりコルセットが外れ、お医者さんから治りましたよと言われても背中が曲がってしまったり不定期に腰が痛くなるなど後遺症が残ることも多く脊柱圧迫骨折は厄介な骨折です。

この圧迫骨折にならないようにするために大切なことは**骨粗しょう症の予防**です。病院で骨密度というものを計測してもらえば自分の骨の強さがわかります。今まで測ったことがない人は一度測ってもらうといいと思います。骨が弱いと診断されれば薬や注射で骨粗しょう症を改善していくこともできます。

また、日ごろから適度な運動を行い栄養バランスの良い食事を心かけてください。

骨のもととなるカルシウムを摂取するためには牛乳やヨーグルトなどの乳製品、小魚、キノコなどがいいようです。日光浴も骨に良いとのことなので散歩がてら、お日様にあたることもお勧めです。



曾根 正登

★東洋医学入門～その 134～ 鍼灸師 村田 雅文

今回も経穴のお話です。足の少陽胆經

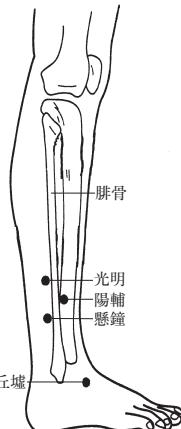
光明……この経穴は足の少陽胆經の絡穴に属し、ここから分かれ別支が足の厥陰肝經に流れます。肝

は目に開窓し、眼痛、目の痒み、夜盲症など眼の疾患に用い、眼に光明を与えることからこの名が付きました。その他には腓骨部の痛みや麻痺、頭痛、乳房の腫れや痛みに用います。

陽輔……古くは腓骨のことを輔骨といい、この経穴は輔（腓）骨の外側（陽側）にあるのでこの名が付きました。坐骨神経痛、腰痛、偏頭痛、肋間神経痛、肩凝り、扁桃炎に用います。

懸鐘……別名を「絶骨」といい古典の『難経』には「髓会は絶骨なり」とあり、この経穴に隨の精氣が集まることを鐘といいます。また「懸」とは釣り下げるという意味もあり、足の少陽胆經は下肢に向かい下降しており、腓骨の先、外踝が鐘の型に似てるので、この名が付きました。坐骨神経痛、下肢の倦怠感、麻痺、足首の捻挫に用います。

丘墟……小高い隆起を「丘」といい、丘を大きくした物を「墟」といいます。この経穴は外踝の前下方の陥凹部にあり、踝の隆起が丘や墟の形をしているので、この名が付きました。足首の捻挫、下肢の麻痺、坐骨神経痛、胆囊炎、肋間神経痛などに用います。



お知らせ



12月3日(日)は当番医です。午前9時から午後5時まで診療を行います。



12月30日から令和6年1月3日まではお正月休みになります。但し1月2日(火)は当番医のためクリニックを開きます。



今年は夏からインフルエンザが流行しています。10月1日からインフルエンザワクチンの予防接種が始まりました。予約不要ですのでいつでもご利用下さい。



田辺クリニックのホームページ

<http://www.tanabecl.sakura.ne.jp/>

はつらつニュースのバックナンバーが入っています。